

## 第2章 計画地の現状

### 第1節 地理的環境

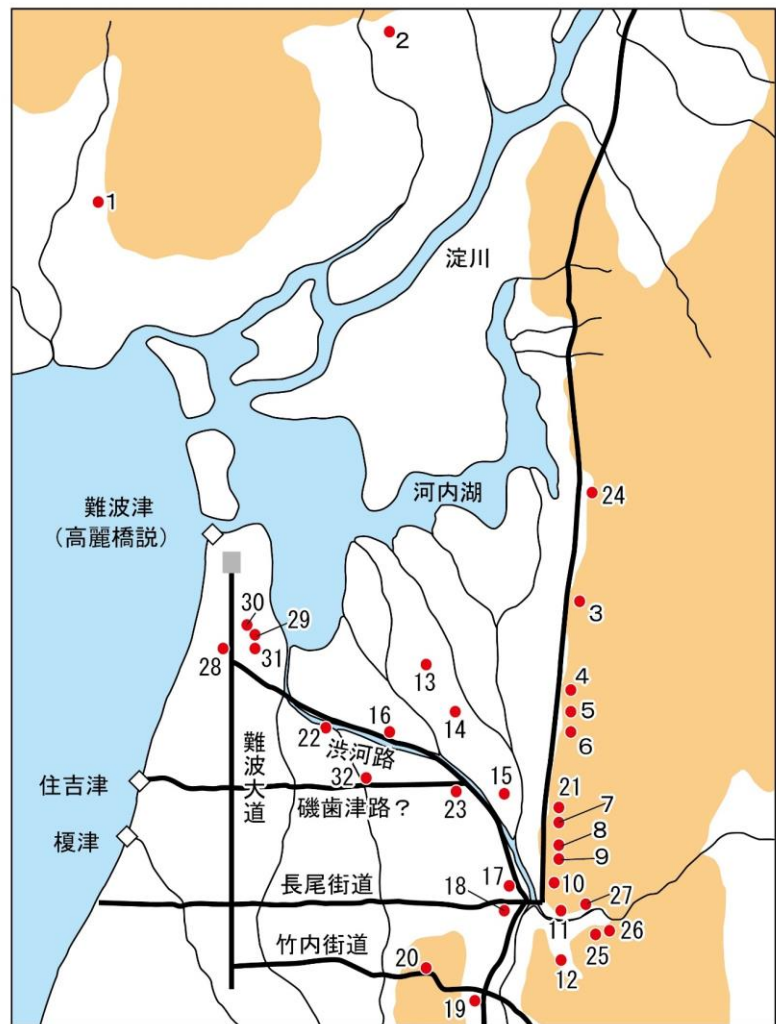
史跡由義寺跡がある八尾市東弓削3丁目は、大阪府の中央部に位置し、東側は市域の約1割強を占める生駒山系の山並みが続き、麓の地域は高安山麓と呼ばれている（図2-2）。

奈良盆地から河内平野に流れる大和川は、八尾市の二俣で分岐し、東の玉串川、西の長瀬川に分かれる。それぞれの河川は、江戸時代の大和川付替えによって現在は川幅が狭まっているが、奈良時代は100mを超える大河川であった。その川筋は、現在も航空写真や地形図等から読み取ることができる（図2-3～図2-5）。

史跡由義寺跡は、この玉串川と長瀬川に挟まれた沖積地に立地し、河川が分流する分岐点（二俣）のほぼ真北に位置する。難波宮から大和へ船で向かう人々に、巨大な由義寺の塔、さらに由義宮の存在を印象づける場所に建立されていたとみられる（図2-1）。

陸路としては、難波宮と平城京を結んだ<sup>しづかわみち</sup>渋河路が長瀬川沿いに通じていたと考えられ、大和と難波を行き来する物資や人の運搬に適した利便性の高い土地であった。

史跡指定地からは、東方の生駒山地の山並みを仰ぎ見ることができ、南北に通じるのちの東高野街道に沿って、<sup>きょうこうじ</sup>教興寺や<sup>こ</sup>高麗寺、さらに南には聖武天皇、称徳天皇とつながりの深い<sup>ちしきじ</sup>智識寺をはじめとする河内六寺などの古代寺院が建立されている。



- |          |           |           |             |           |
|----------|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 1: 金寺山廃寺 | 9: 太平寺廃寺  | 16: 洪川廃寺  | 24: 法通寺跡    | 31: 勝山南遺跡 |
| 2: 太田廃寺  | 10: 安堂廃寺  | 17: 船橋廃寺  | 25: 河内国分尼寺跡 | 32: 太子堂遺跡 |
| 3: 河内寺跡  | 11: 高井田廃寺 | 18: 衣縫廃寺  | 26: 河内国分寺跡  |           |
| 4: 心合寺跡  | 12: 原山廃寺  | 19: 西琳寺   | 27: 青谷遺跡    |           |
| 5: 高麗寺跡  | 13: 西郡廃寺  | 20: 野中寺   | (竹原井頓宮跡)    |           |
| 6: 教興寺跡  | 14: 東郷廃寺  | 21: 神宮寺遺跡 | 28: 四天王寺    |           |
| 7: 大泉廃寺  | 15: 由義寺跡  | 22: 久宝寺遺跡 | 29: 堂ヶ芝廃寺   |           |
| 8: 大泉南廃寺 | (弓削寺跡)    | 23: 老原遺跡  | 30: 細工谷遺跡   |           |

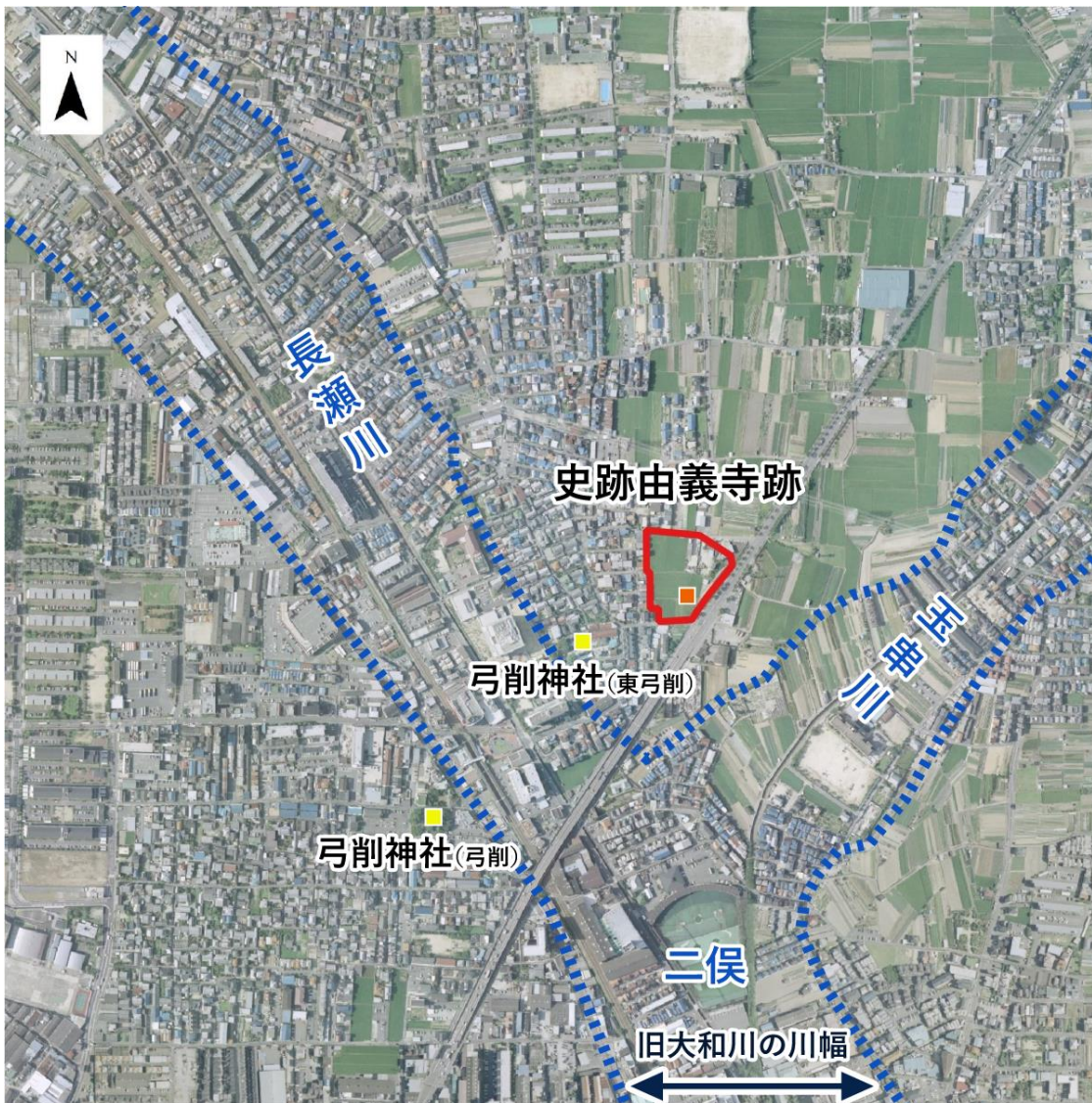
● 関連古代寺院及び瓦出土位置

図2-1 史跡由義寺跡と古代寺院の位置

(出典：『新版八尾市史 考古編2』, 2020 を一部修正)



図 2-2 史跡由義寺跡から望む生駒山地の山並み



出典：国土地理院撮影航空写真（2007年7月31日撮影）

図 2-3 史跡由義寺跡周辺の航空写真



図 2-4 昭和 30 年代の史跡由義寺跡周辺 (『目で見る八尾・柏原の 100 年』より・北西から撮影)

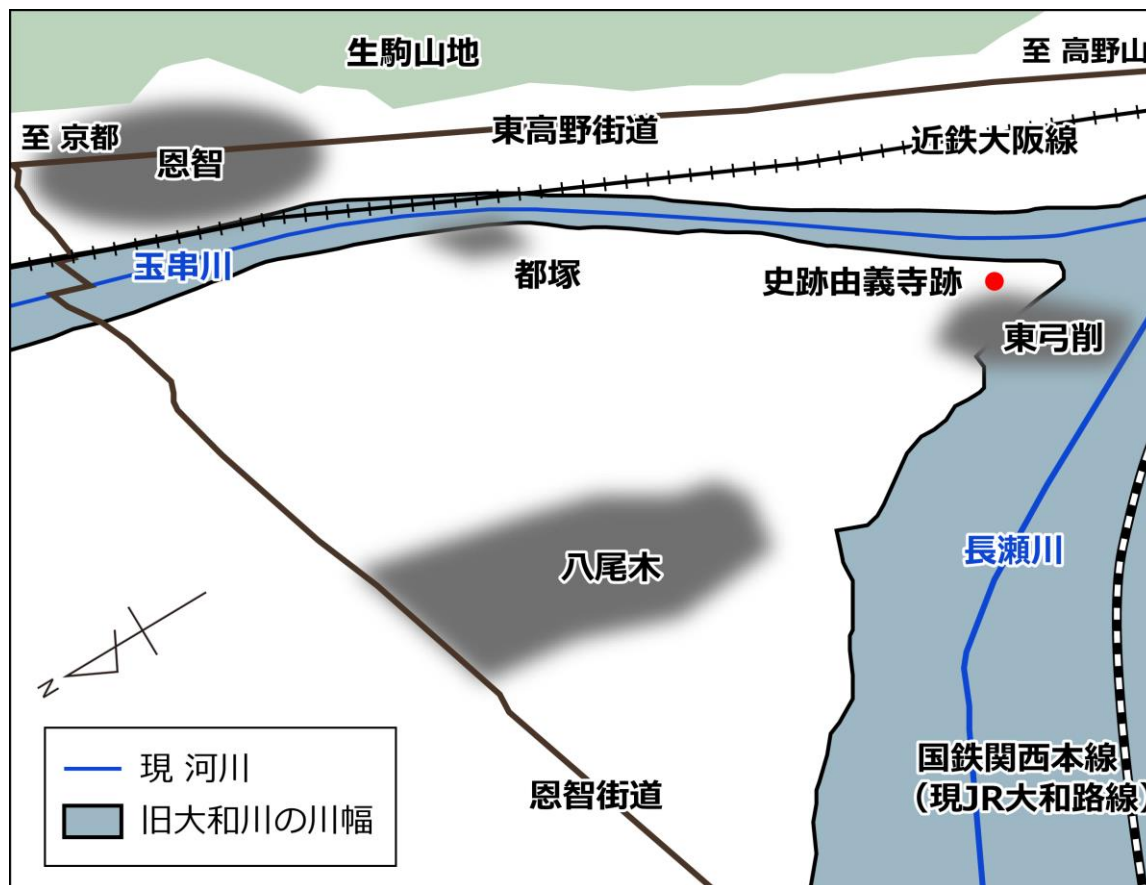


図 2-5 昭和 30 年代の史跡由義寺跡周辺写真説明図

## 第2節 歴史的環境

由義寺が建立された歴史的な経緯について理解するため、建立前後のこの地域周辺の歴史を時代ごとに概観する。

### ①飛鳥時代

中河内には、智識寺（柏原市）をはじめとする河内六寺（智識寺、山下寺、大里寺、三宅寺、家原寺、鳥坂寺）などの古代寺院が生駒山系の山麓部に造られた。河内六寺に続くように、市域では心合寺（秦興寺）や高麗寺、教興寺をはじめとする寺院が建立された。

平野部においては、物部氏と蘇我氏の争いを経て、物部氏の衰退後の7世紀前半に上宮王家もしくは蘇我氏が建立した河内最古の渋川廃寺がある。由義寺の前身寺院である弓削寺も、物部氏と関係が深かったとされる弓削氏の氏寺として飛鳥時代に建立されたと考えられている。

### ②奈良時代～平安時代

和銅3（710）年、藤原京から平城京に遷都され、律令国家としての体裁が整っていく。現在の八尾市は、河内国に属しており、その範囲は高安郡、若江郡、渋川郡、志紀郡、丹比郡、大県郡にまたがる。由義寺は若江郡内に立地し、平城京と難波宮や難波津を結ぶ要衝の地にある。

『続日本紀』によると、天平神護元（765）年に称徳天皇が弓削氏出身の道鏡の故郷である弓削の地に行幸し、弓削寺で礼仏している。以降、称徳天皇の行幸は合計3度に及んだ。神護景雲3（769）年には、保良宮を北京と称したのにならって、平城京の西に位置した由義宮を西京と名付けた。そして、難波宮のあった摂津職にならい特別行政区とするため、河内国を河内職に改めた。しかし、天皇の死により西京の造営は中止となった。

『続日本紀』に記載があった由義寺の実態は不明だったが、発掘調査によって西大寺系や東大寺系、興福寺式などの瓦や凝灰岩の切石片とともに大規模な塔基壇が発見された。官営寺院として建立された由義寺、さらに由義宮（西京）の実態を知る貴重な手がかりをようやく得ることができた。

称徳天皇の死後、道鏡は下野薬師寺別当として下野に下向した。河内職は廃止され河内国に復された。その後の由義寺については、長暦2（1038）年に弓削寺が醍醐寺領として、さらに建永2（1207）年に「龍華寺（字弓削寺）」が通法寺の末寺として、史料にみえる。しかし、由義寺との関係や伽藍の変遷について、詳細は明らかでない。

### ③鎌倉時代～江戸時代

中世における八尾の城郭は、八尾城が文献資料で存在が知られ、その時期は南北朝時代と安土桃山時代とされる。しかし、その所在地は明らかでなく、古くから長瀬川北岸の「八尾座」説と、常光寺東側の「西郷」説の2説があった。「八尾座」は、由義寺から長瀬川に沿って北に約2kmのあたりに位置しているが、両時期の城郭に関するような遺構等は確認されていない。一方、「西郷」の八尾城は、安土桃山時代の城郭とされるが、八尾座と同様に該期の遺構は確認されていない。しかし、西郷墓地で見つかった天正10（1582）年銘のキリシタン墓碑の存在が

ら、キリシタンが居住した城郭であった可能性が高い。

平野部で浄土真宗（開祖・親鸞）の中興の祖である蓮如れんによの布教をきっかけに建立された西証寺さいしょうじ（のちの顕証寺けんしょうじ）を中心とした久宝寺寺内町、さらに萱振寺内町が造られる。その後、本願寺の東西分派の影響を受け、八尾寺内町が成立、発展し、現在の八尾市の基礎となっている。

河内平野は、河川が運ぶ肥沃な土壌で耕作に適していたが、洪水による被害も多発していた。そのため、宝永元（1704）年に中甚兵衛なかじんべえらの訴えにより大和川の付け替えが行われ、その後、旧大和川の川筋の地で新田開発が進められた。新田では砂地に適した綿木が栽培され、河内を代表する産地となった。大和川の付け替え後、水不足が生じた弓削村の西村市郎右衛門は、幕府の許可を待たずに新大和川の水を引き込み、村々を旱魃から救ったと伝えられる。これを顕彰した石碑が大正5（1916）年に建てられている。

中世以降の由義寺の様相は不明である。発掘調査の状況からは田畑が広がり、伽藍の場所等も明らかでなかったとみられる。江戸時代の観光ガイドブックともいわれる『河内名所図会』（享和元（1801）年刊行）によると、由義宮ゆかりの地として都塚村に「都塚」、「祇園塚」、「弁財天塚」などの塚があったとする。さらに「由義宮」や「弓削寺址」、「弓削行宮あんぐう」の項目も掲載され、由義宮に対して江戸時代の人々も関心を持っていたことがわかる。

#### ④近代～現代

明治維新後の廃藩置県を経て、明治22（1889）年の市町村制施行後、史跡由義寺跡のある若江郡の東弓削村、都塚村など六村が合併して曙川村になった。

戦後、昭和23（1948）年の八尾市発足後、昭和30（1955）年に曙川村が八尾市に編入、その後昭和39（1964）年に松原市若林及び大堀の一部が編入され、現在の八尾市が誕生した。八尾市の人口は約26万3千人（令和4年3月末時点）で、史跡由義寺跡が位置する曙川地区（曙川小学校、刑部小学校、曙川東小学校区）は約2万6千人が居住している。

史跡由義寺跡がある外環状線周辺は市街化調整区域であることから、水田、畑地の景観が広がっていたが、区画整理事業により新たな市街地としての整備が進み、店舗や住宅が建ち並ぶ景観に変わりつつある。

表 2-1 八尾の歴史年表（古墳時代後期以降）

時代	世紀等	八尾のおもなできごと	日本のおもなできごと	
古墳時代	6世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>郡川西塚古墳、郡川東塚古墳（前方後円墳）が築造される</li> <li>高安千塚古墳群（国史跡）の造墓が開始される</li> <li>愛宕塚古墳（府内最大級の横穴式石室・府史跡）が築造される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>507年 継体天皇が即位する</li> <li>527年 筑紫君磐井の乱が起こる</li> <li>538年 百濟より仏教が伝来する</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>高安千塚古墳群の造墓が終わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>587年 蘇我馬子、厩戸皇子らと物部守屋を滅ぼす</li> <li>592年 初の女帝・推古天皇が即位</li> <li>600年 遣隋使が開始される</li> </ul>	
飛鳥時代	7世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>中河内最古の寺院の渋川廃寺が建立される</li> <li>高安山古墳群が築造される</li> <li>667年 高安城が築かれる</li> <li>心合寺や高麗寺など山麓に寺院が建立される</li> <li>池島・福万寺遺跡で条里制の水田がつくられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>607年 法隆寺が建立される</li> <li>630年 遣唐使が開始される</li> <li>645年 大化の改新が始まる</li> <li>663年 白村江の戦が起こる</li> <li>672年 壬申の乱が起こる</li> <li>694年 藤原京に遷都</li> </ul>	
		8世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>701年 高安城廃城</li> <li>712年 元明天皇が高安城に行幸する</li> <li>742年 弓削寺の僧が得度者を推挙する（弓削寺の初見）</li> <li>764年 道鏡が大臣禪師になる</li> <li>765年 称徳天皇が弓削行宮に行幸する（第1回行幸） 弓削寺に礼仏する/道鏡が太政大臣禪師になる</li> <li>766年 道鏡が法王になる</li> <li>769年 称徳天皇が由義宮に行幸する（第2回行幸） 由義宮を西京とする 河内職を置く</li> <li>770年 称徳天皇が由義宮に行幸する（第3回行幸） 由義寺の塔が建立される（由義寺跡・国史跡） 道鏡、下野薬師寺別当として下向する ※くわしくは「表 3-1 由義寺関連年表」を参照</li> <li>785年 河内国の堤 30 カ所を修築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>701年 大宝律令が完成する</li> <li>710年 平城京に遷都</li> <li>743年 墾田永年私財法が出される</li> <li>752年 東大寺大仏開眼供養が行われる</li> <li>764年 藤原仲麻呂の乱が起こる 称徳天皇が重祚する</li> <li>769年 宇佐八幡宮神託事件が起こる</li> <li>770年 称徳天皇が崩御する</li> </ul>
奈良時代	9世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>821年 河内国の水害の被害者に田祖の免除</li> <li>832年 大風雨で河内国の堤防が決壊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>784年 長岡京に遷都</li> <li>794年 平安京に遷都</li> <li>894年 遣唐使が停止される</li> </ul>	
		10世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>927年 『延喜式（神名帳）』（927年撰進）の若江郡に、「弓削神社」の記載あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>902年 延喜の荘園整理令が出される</li> </ul>
		11世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>1038年 弓削寺が醍醐寺領であると史料にみえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1016年 藤原道長が摂政になる</li> <li>1053年 藤原頼通が平等院鳳凰堂を造営する</li> </ul>
平安時代				

時代	世紀等	八尾のおもなできごと	日本のおもなできごと
鎌倉時代	12世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・向山瓦窯で平等院鳳凰堂の瓦がつくられる</li> <li>・池島・福万寺遺跡で藤原氏の荘園、玉櫛荘関係の水田が経営される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1101年 平等院鳳凰堂が瓦に葺き替えられる</li> <li>・1167年 平清盛が太政大臣になる</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1185年 北条時政が菴光寺に制札を発給する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1185年 治承・寿永の乱が起こる</li> <li>・1192年 源頼朝が征夷大将軍になる</li> </ul>
	13世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1207年 「龍華寺(字弓削寺)」が通法寺の末寺であると史料にみえる</li> <li>・1281年 叡尊が教興寺で蒙古降伏の祈禱を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1274年 元寇・文永の役が起こる</li> <li>・1281年 元寇・弘安の役が起こる</li> </ul>
	14世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1337年 北朝方の八尾城を南朝が攻める</li> <li>・1389年 足利義満が常光寺に木材を寄進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1333年 鎌倉幕府が滅びる</li> <li>・1334年 建武の新政が行われる</li> <li>・1338年 足利尊氏が室町幕府を開く</li> <li>・1392年 南北朝が合一される</li> </ul>
室町・戦国時代	15世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1460年 畠山義就と畠山政長の争い(松の馬場)が起こる</li> <li>・1470年 蓮如が久宝寺で布教する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1467年 応仁の乱が起こる</li> </ul>
	16世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1510年 河内地震が起こる</li> <li>・1545年 顕証寺本堂が完成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1549年 キリスト教が伝来する</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1575年 織田信長と本願寺との石山合戦で萱振と久宝寺の寺内町が焼き討ちされる</li> <li>・1581年 八尾城にキリスト教仮聖堂が建立される</li> <li>・1582年 西郷墓地にキリシタン墓碑が建てられる</li> <li>・1583年 大坂城築城の際に千塚之石が利用される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1573年 織田信長が室町幕府を滅ぼす</li> <li>・1583年 豊臣秀吉が大坂城を築城する</li> <li>・1587年 伴天連追放令が出される</li> <li>・1600年 関ヶ原の戦い</li> </ul>
安土・桃山時代	17世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1608年 森本七郎兵衛らが慈願寺とともに久宝寺を出て、八尾寺内町をつくる。大信寺が建立される</li> <li>・1615年 大坂夏の陣で八尾・若江の戦いが行われる</li> <li>・1660年 大信寺が現在の地に移転する</li> <li>・1679年 『河内鑑名所記』に高安千塚古墳群が紹介される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1602年 本願寺(東西)が分立する</li> <li>・1603年 徳川家康が江戸幕府を開く</li> <li>・1614年 大坂冬の陣が起こる</li> <li>・1615年 大坂夏の陣が起こる</li> </ul>
	18世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1704年 大和川が付け替えられる(旧川筋で新田開発が始まる)</li> <li>・1707年 宝永の大地震が起こる</li> <li>・1708年 安中新田で検地が行われる</li> <li>・1711年 慈願寺本堂が修復される</li> <li>・1716年 顕証寺本堂が再建される</li> <li>・1727年 伊藤東涯が環山楼で講義する</li> <li>・1767年 大信寺本堂が再建される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1716年 享保の改革が行われる</li> </ul>
江戸時代			

時代	世紀等	八尾のおもなできごと	日本のおもなできごと
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1783年 常光寺本堂が再建される</li> <li>・1788年 大信寺本堂が京都へ移築される</li> <li>・1799年 大信寺本堂が京都から還付される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1787年 寛政の改革が行われる</li> </ul>
	19世紀	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1801年 『河内名所図会』に市域の名所が紹介される</li> <li>・1814年 慈願寺本堂が焼失する</li> <li>・1822年 慈願寺本堂が再建される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1841年 天保の改革が行われる</li> <li>・1853年 ペリーが浦賀に来港する</li> <li>・1867年 大政奉還される</li> </ul>
明治		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1869年 河内県庁が大信寺に置かれる</li> <li>・1889年 大阪鉄道の湊町-柏原間が開通する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1868年 明治維新になる</li> <li>・1871年 廃藩置県が行われる</li> <li>・1889年 大日本帝国憲法が公布される 市町村制が施行される</li> <li>・1894年 日清戦争が起こる</li> </ul>
	20世紀		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1904年 日露戦争が起こる</li> <li>・1914年 第一次世界大戦が起こる</li> <li>・1919年 史蹟名勝天然記念物保存法が施行される</li> <li>・1923年 関東大震災が起こる</li> </ul>
大正		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1924年 大阪電気軌道の布施-八尾間が開通する</li> <li>・1925年 大阪電気軌道の八尾-恩智間が開通する</li> </ul>	
昭和		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1938年 関西飛行場（のちの八尾空港）ができる 関西本線に竜華操車場ができる</li> <li>・1948年 八尾市が発足する</li> <li>・1966年 心合寺山古墳が国史跡に指定される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1939年 第二次世界大戦が起こる</li> <li>・1941年 太平洋戦争が起こる</li> <li>・1945年 終戦する</li> <li>・1946年 日本国憲法が公布される</li> <li>・1950年 文化財保護法が施行される</li> </ul>
	21世紀		
平成		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年 心合寺山古墳の史跡整備が完成する</li> <li>・2009年 安中新田会所跡旧植田家住宅の整備が完成する</li> <li>・2015年 高安千塚古墳群が国史跡に指定される</li> <li>・2018年 由義寺跡が国史跡に指定される</li> </ul>	
令和		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年 郡川西塚古墳が史跡高安千塚古墳群に追加指定される</li> </ul>	



第3節 社会的環境

(1) 交通・アクセス

史跡由義寺跡は、大阪と奈良の交通上の中継地点にあたり、鉄道や道路網が発達した地域に立地する（図2-6）。JR関西本線（大和路線）志紀駅から東へ約400m、近鉄大阪線恩智駅から南西へ約1kmの位置にある。史跡由義寺跡の最寄り駅になるJR志紀駅からは、住宅地内もしくは国道沿いを歩いて約7分程度の距離にある。近鉄恩智駅からは徒歩約15分の距離にある。

道路は、史跡由義寺跡は国道170号（大阪外環状線）と隣接し、沿道地域にある大阪府の北摂地域や泉州地域の各道路からも接続しやすい。しかし、周辺には公共の駐車場はなく、自動車によるアクセス環境は十分に整っていない。

最寄りバス停（アクロスプラザ南口）には、近鉄八尾駅・JR志紀駅を結ぶ路線（大阪バス）が停車し、1日に11往復ある（2022年7月現在）。

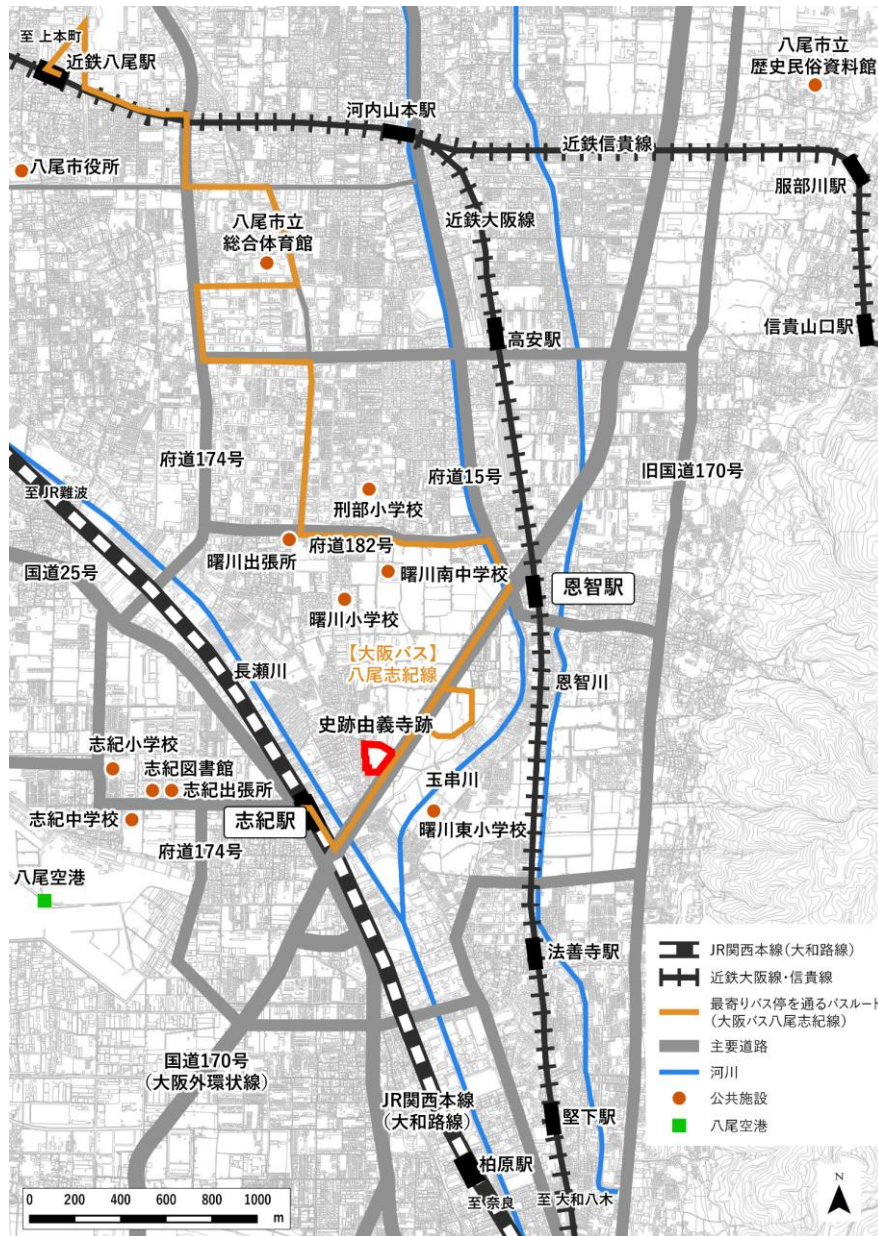


図2-6 史跡由義寺跡周辺の交通環境及び主な公共施設等

### ■ 史跡指定地に隣接する道路

史跡指定地の隣接地は、西側と北西側を除いて道路に接している。

史跡指定地東側は、昼夜を問わず交通量の多い大阪外環状線（国道 170 号）であり、史跡指定地は多くの人に見られやすい環境にある。しかし、徒歩や自転車の通行にあたっては、歩道が狭いといった問題点がある。

史跡指定地南側は、史跡指定地西側の住宅地内を通る人のアクセス道路になっており、車の交通量はほとんどない。

史跡指定地北側は、北側農地内を通る道路で、車の交通量はあまりない。



史跡指定地東側道路（国道 170 号）



史跡指定地南側と公園との間の道路



史跡指定地北側の道路

図 2-7 史跡指定地に隣接する道路

表 2-2 隣接する国道 170 号の交通量（出典：平成 27 年全国道路・街路交通情勢調査）

昼間 12 時間交通量（全車上下計）	45,710 台
24 時間交通量（全車上下計）	61,858 台

### ■ JR 志紀駅から史跡指定地への道路

大和路線の JR 志紀駅は史跡指定地に最も近い駅で、駅前には周辺の史跡マップ看板が設置されている。しかし、史跡指定地に向かう案内板はなく、アクセスルートが分かりにくい状況にある。また、由義寺と関連の深いとみられる弓削神社（東弓削）を経由する場合は、住宅地内を通る必要が生じる。



JR 志紀駅前



国道 170 号沿いの道路  
（史跡指定地南側）



住宅地内の道路  
（史跡指定地南西側）

図 2-8 JR 志紀駅から史跡指定地への道路

### ■近鉄恩智駅から史跡指定地への道路

近鉄大阪線の近鉄恩智駅は JR 志紀駅に次いで近い駅で、駅前に史跡案内マップ看板が設置されている。しかし、史跡指定地に向かう案内板はなく、アクセスルートが分かりにくい状況である。近鉄恩智駅側から車でアクセスする場合は、右折ができない交差点があるなどルート上、分かりにくいところがある。



近鉄恩智駅前

国道 170 号（都塚交差点付近）

国道 170 号  
（東弓削 3 丁目交差点付近）

図 2-9 近鉄恩智駅から史跡指定地への道路

## （2）周辺環境

### ①周辺の土地利用及び周辺施設

平成 27（2015）年 7 月 10 日から令和 2（2020）年 3 月 31 日にかけて曙川南土地区画整理事業が実施された。史跡由義寺跡はこの土地区画整理事業における事前の発掘調査で確認された。

史跡指定地北側の隣接地は市街化調整区域で、農地が広がる。西側の隣接地は既存の低層住宅地で、史跡由義寺跡に最も近い住宅街である。南側の隣接地には区画整理事業によって整備された都市公園（東弓削 3 丁目公園）がある。

国道 170 号を隔てた東側の隣接地は、区画整理事業による新しいまちづくりが進められている区域で、北東側には、新たに整備された商業施設（アクロスプラザ）があり、新たなまちとしてにぎわいが創出されている。

史跡由義寺跡の 1 km 圏内には、コミュニティセンター（曙川・志紀）、保育所（あけぼの・あけぼの第二・ゆめの子・やおぎ）、小学校（曙川東・曙川）、中学校（曙川南）、高等学校（八尾翠翔）がある。交差点を挟んで北東に立地する商業施設には、駐車場（680 台）・駐輪場（815 台）が付属する 21 の店舗がある。

史跡由義寺跡の北方約 600mにある曙川公園は、住民が参加したワークショップを経て利用のルールも策定して再整備された。ここでは、他の公園では禁止とされる「ボール遊び」・「花火」・「ペットの散歩」を一定の条件を満たせば行うことができる。

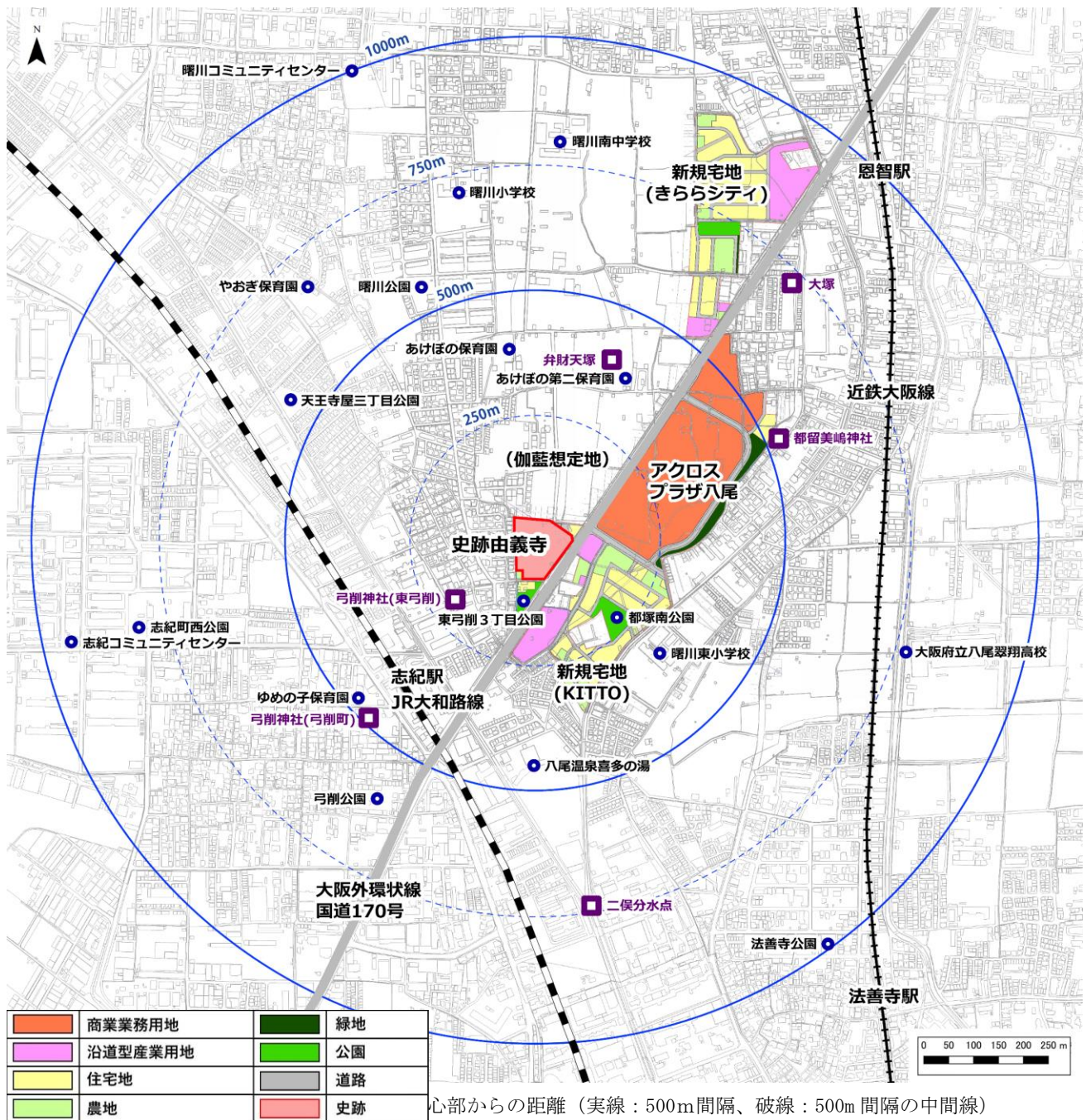


図 2-10 史跡由義寺跡を中心とした土地利用と周辺施設



図 2-11 史跡由義寺跡周辺の土地利用

②周辺の校区

八尾市には 27 の市立小学校と 14 の市立中学校及び義務教育学校が 1 校ある。史跡由義寺跡が所在する東弓削 3 丁目は曙川東小学校及び曙川南中学校の校区になり、志紀中学校区が西に近接している。

曙川南中学校区は、玉串川と長瀬川に挟まれた住宅地及び農地を含む通学区域で、人口は令和 4（2022）年 3 月末時点で 26,112 人である。校区内には、由義神社や弓削神社（東弓削）、弁財天塚などの文化財がある。

志紀中学校区は、府営住宅を含む住宅地で、人口は令和 4（2022）年 3 月末時点で 15,969 人である。校区内には、弓削神社（弓削町）や西村市郎右衛門碑（志紀町南）などの文化財がある。

近辺には、玉串川の桜並木や八尾木のつくりもん等の地域資源もあり、史跡由義寺跡の他にも多くの文化財や地域資源を有している。

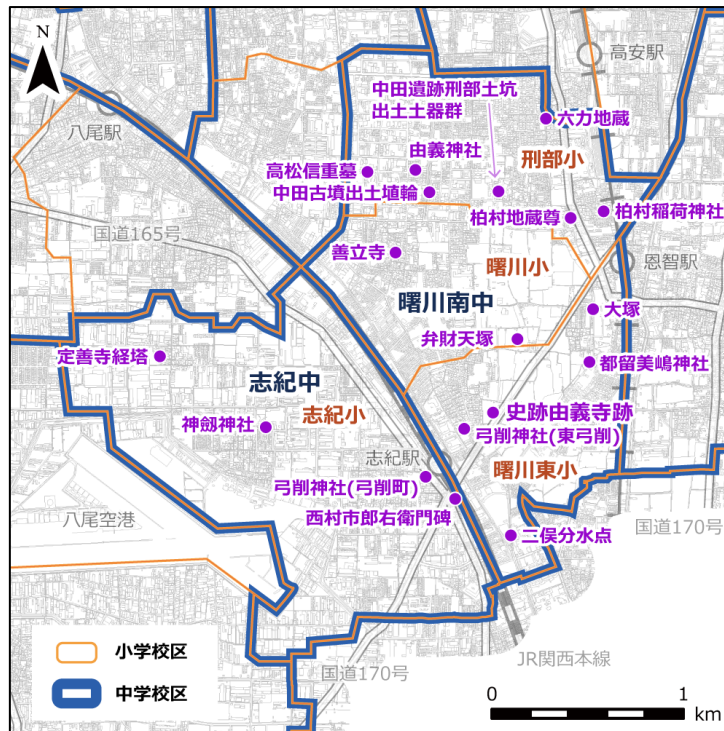


図 2-12 曙川南中学校区及び志紀中学校区の文化財（一部）

表 2-3 史跡由義寺跡周辺の校区別人口

校区名	人口
曙川南中学校区	26,053 人
曙川東小学校区	6,918 人
曙川小学校区	8,098 人
刑部小学校区	11,037 人
志紀中学校区（志紀小学校区）	15,852 人

出典：住民基本台帳人口（2022年9月末）

### （3）法規制

#### ①文化財保護法

史跡指定地は、文化財保護法第125条に基づき、現状維持を基本とし、史跡の保存に影響を与えるような現状変更等は原則としてできない。史跡由義寺跡周辺は、旧大和川流域を除く地域は「周知の埋蔵文化財包蔵地」で、土木、建築工事の際には、文化財保護法第93条もしくは第94条に基づく届出・通知等が必要である。

#### ②都市計画法

史跡指定地及び北側を除く隣接地域は、市街化区域の第1種住居地域で、建ぺい率60%、容積率200%の制限を受けている。史跡指定地の北側は、市街化調整区域で、原則開発は行うことができない。ただし、都市計画法第34条各号のいずれかの立地基準に適合している場合は、市街化調整区域内で開発行為が可能となる。また、史跡指定地に隣接する北側の区域には、都市計画道路である大阪柏原線が計画されている。

③八尾市景観条例・計画

史跡由義寺跡は、景観法および市景観条例に基づく八尾市景観計画における「高安・生駒山並み眺望景観区域」にある、国道170号の西端から西に50mの範囲は規制を受ける。ただし、景観区域内で行う行為であっても、文化財保護法第168条第2項の同意を得て行う行為や八尾市文化財保護条例第10条第1項の許可を受けて行う行為、文化財保護法第35条第1項（同法第118条及び第120条において準用する場合を含む。）の規定による補助金の交付を受けて行う行為などは届出を必要としない

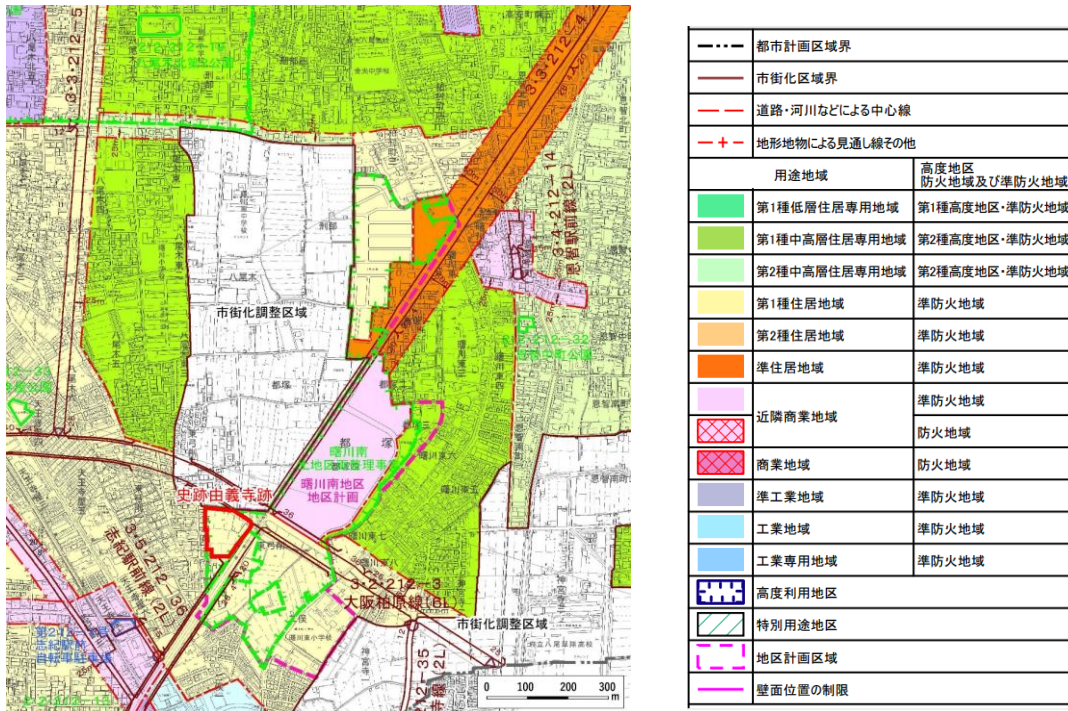


図 2-13 史跡由義寺跡周辺の都市計画（八尾市都市計画図に一部追記）

④航空法

八尾空港の周辺では、航空の安全を確保するため、一定の空域を障害物がない状態にしておく必要がある。空域では物件等が上に出るはいけないという高さ制限（進入表面・転移表面・水平表面）が設定されている（航空法第49条）。史跡由義寺跡付近の制限高（標高）は約55mとなっている。高さ制限には、看板、電線、電信柱などの工作物以外に、上空に浮揚するアドバルーンや無人航空機（ドローン・ラジコン機等）も該当する。